
口頭発表**[II-29-01_03]栄養・飼養（II-午前）**

Chairman:Hajime Kumagai

Fri. Mar 29, 2019 9:00 AM - 9:30 AM 第II会場 (8号館8302講義室)

9:10 AM - 9:20 AM**[II29-02]ダイコン残渣およびパイナップル残渣のインビトロ法による反芻
家畜用飼料として評価**

○yan Liu chun¹, misora ozaki¹, shunta kogure¹, reio suzuki¹, yuuki miyata¹, hideki sumi¹, sanae asano¹, hiroshi kajikawa¹, kei takahashi² (1.NIHON Univ. COLLEGE OF BIORESOURCE SCIENCES, 2.kankyoutekushisu)

【目的】食品加工の過程で発生するダイコンとパイナップルの残渣は、高利用性飼料としての特性が期待される。本試験では両残渣の消化・発酵特性をインビトロ法により評価した。【方法】両残渣（ダイコン、パイナップルと表記）の化学成分と併せて抗酸化能（FRAP）や硝酸Nを分析した。フィステル装着牛のルーメン内で経時的に培養するインシチュ法により消化パラメータを求めた。また嫌氣的バッチ培養により経時的な発酵特性を測定した。対照飼料としてイタリアンライグラス（IRG）とコーンを用いた。【結果】飼料成分（OM, CP, NDP, % DM）ダイコンが89, 9, 34で、パイナップルが95, 7, 60であり、FRAPがそれぞれIRGの0.7倍と3.4倍であった。DMのインシチュパラメータ(aとb% DM, kd%/hr)はダイコンで94, 6, 7.0, パイナップル20, 68, 4であり、ダイコンで溶解性が高く、パイナップルでコーンと類似の反応を示した。発酵特性（総ガスとVFA）はコーンと比べてダイコンが同等の、パイナップルが多少低い傾向を示した。ダイコンはメタン産生を強く抑制し、培養初期に乳酸産生を示した。